岡崎市議会議長　様

支出番号	4

会派名
代表者名　三浦康宏　㊞

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

令和２年 ３月 ２７日提出

活動年月日	令和　１年　１１月７日（木）～ 令和　１年　１１月８日（金）	
氏名	三浦　康宏	
用務先及び内容	1 １１月７日	用務先　鹿児島県霧島市
		内　容　第81回全国都市問題会議 1日目
	2 １１月８日	用務先　鹿児島県霧島市
		内　容　第81回全国都市問題会議 2日目
備　考		

岡崎市議会事務局 受付 2 3.27

政務活動視察報告書

報告者：三浦　康宏

視　察　日	令和１年１１月７日（木）・８日（金）
視察内容	第８１回全国都市問題会議
視　察　者	三浦康宏

＜霧島市 第８１回全国都市問題会議の概要＞

テーマ：「防災とコミュニティ」

会場：霧島市
　　霧島市国分体育館

第１日目

9:30　開会式

9:50　基調講演
　　志學館大学人間関係学部教授 原口泉

11:00　主報告
　　鹿児島県霧島市長 中重真一

13:10　一般報告
　　尚絅学院大学人文社会学群長 田中重好

14:40　一般報告
　　広島県広島市長 松井一實

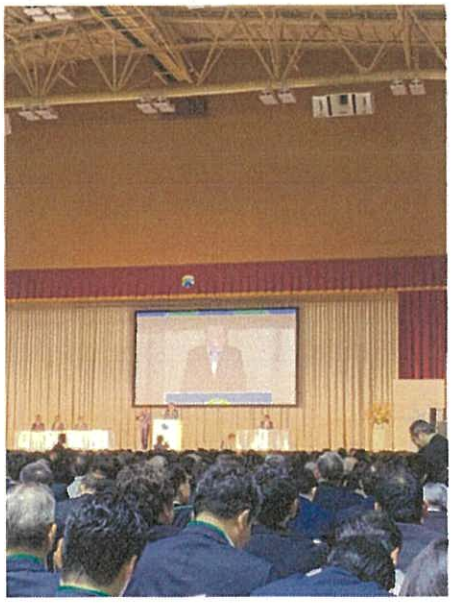
15:50　一般報告
　　防災科学技術研究所火山研究
　　推進センター長 中田節也

第２日目

9:30　パネルディスカッション
　　コーディネーター 追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授
　　田中正人

　　パネリスト 専修大学人間科学部教授 大矢根淳
　　香川大学地域強靭化研究センター特命准教授 磯打千雅子
　　霧島市国分野口地区自治公民館長 持留憲治
　　静岡県三島市長 豊岡武士
　　和歌山県海南市長 神出政巳

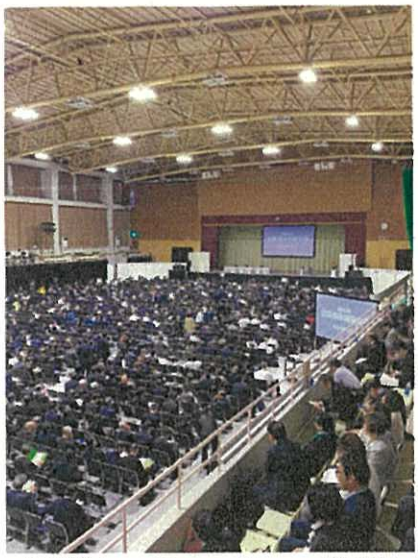
11:50　閉会式



＜霧島市 第８１回全国都市問題会議 基調講演＞

「鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵」

「洪水→台風→旱魃→虫害→疫病」のサイクルを繰り返し、更に火山爆発、地震、津波が被害を増幅させた南九州の江戸時代の災害史を振り返り、この厳しい環境下でどのように暮らして来たのかを、シラス台地の「ガマ」「山城」、「門割制度」（4～5戸の農家の集まりごとに耕地を割り当て、一定期間ごとに割り変えをする制度）などを例に解説し、前近代において、災害が起きる事を前提として社会が築かれていたと説明。私たちも「災害は自分の身近な所で起こり得る可能性がある」と言う認識を持って、防災対策を考えるべきと説いた。



＜霧島市 第８１回全国都市問題会議 主報告＞

「霧島市の防災の取組－火山防災－」

中重真一霧島市長が報告。鹿児島県本土の大部分は主に姶良カルデラから火砕流として噴出したシラスや溶結凝灰岩によって広く覆われており、この内火山灰からなるシラスは、水を含むと崩れやすい特性があり、これまでにも梅雨期や台風時等豪雨により、がけ崩れ等の土砂災害が数多く発生して来た。また鹿児島県には11の活火山があり、霧島市の霧島山においても平成23年に約300年ぶりに新燃岳が噴火し、周辺自治体にも大きな被害をもたらした。そこで今回はその際の経験を基に、活火山と共生する霧島市の火山防災の取組をご報告頂いた。

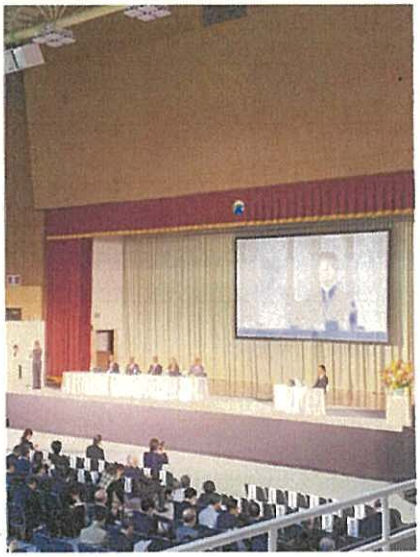
＜霧島市 第８１回全国都市問題会議 一般報告＞

「災害とコミュニティ：地域から地域防災力強化への答えを出すために」

1995年の阪神・淡路大震災以降、「公助・共助・自助」と言う言葉が一般的になり、ボランティア活動の領域が量的にも質的にも拡大し盛んになった。しかし地域での防災の取組は政府レベルの制度改正も伴わず各地域の創意工夫に委ねられてきたが、東日本大震災後の災害対策基本法の改正により、地区防災計画制度が導入されたことは画期的なことであり、世界的にもコミュニティを基礎として防災対策を推進して行く事が重要だとの認識が広まった。そこで「コミュニティ」の概念や防災における取組、課題、問題点などを分析し、それぞれ「地域ごとに答えを出す」事、そしてそれを「横に結ぶ事」で、「地域からの防災力強化」が実現する近道だとした。

「平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と取組について」

松井一實広島市長が、表題の報告をされ、平常時には「当事者意識を持ち、予断を持たず災害の備えをとり、近隣の市町との危機管理体制の連携を図ること」、復旧・復興期以降は「その後も住民が愛着を持って住み続けられるような“まち”にすると言う視点を持ち、前例にとらわれず、常に検証し、必要な改善を行い、記録し継承を図ること」が大切だと説いた。



「火山災害と防災」

日本の火山活動についての説明、防災、ジオパークの活用を交え、国任せにするのでなく、自然を認識し、協働で防災を行う必要性を訴えた。

＜霧島市 第８１回全国都市問題会議
パネルディスカッション＞

「防災とコミュニティ」

パネリスト皆さんがそれぞれのお立場からテーマに沿った発言をされた後、まとめとして①市民と行政の信頼・協力関係をつくる、②あるものを使う（一歩ふみこむ）、③自助・共助・公助の３分論を溶かす（人と人とが直接接点を持つ場面を）ことが重要とした。

[感想・岡崎市への反映]

開催地がら火山等特殊な事例も含め、全国から様々な「防災とコミュニティ」に関する事例、取組、考え方が紹介され有意義な時間となった。2日間で繰り返し述べられたのはやはり「災害を身近に起こり得る自分事として認識することの大切さ」と「コミュニティの重要性」だった。どちらも普段からの心掛け、取組が必要であり、更に本市、地域の為に心に留め、活かして行きたい。